

泉屋博古館 (京都・鹿ヶ谷)

2025年 展覧会スケジュール

いつも大変お世話になり感謝申し上げます。

京都東山・鹿ヶ谷の地にて開館して以来、65年目を迎える泉屋博古館。

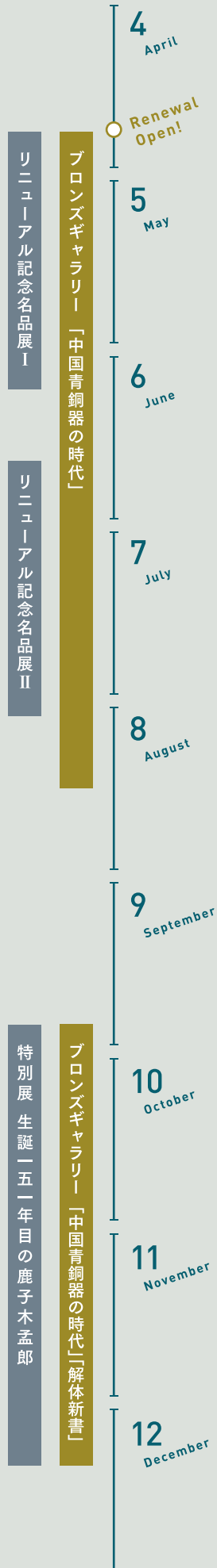
一年の改修工事を経て、装いを新たに再び始動します。

2025年はプレスリリースに掲載の展覧会を開催いたします。

何卒宜しく願いいたします。

Schedule 2025

KYOTO



泉屋博古館

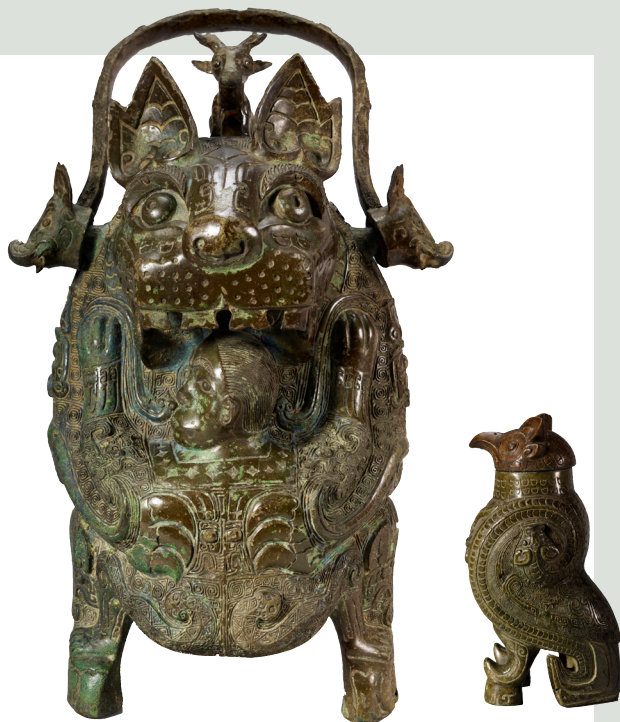
SEN-OKU
HAKUKOKAN
MUSEUM

ブロンズギャラリー

「中国青銅器の時代」

2025年 4月26日(土) → 8月17日(日)*

2025年 9月27日(土) → 12月14日(日)



青銅器館は1970年日本万国博覧会開催の年にオープンし、多くのお客様をお迎えしてきました。このたび、京都本館リニューアルオープンに合わせて展示内容を一新します。

第1展示室 名品ギャラリー

住友コレクションの名品を一堂に会した中国青銅器の世界へのイントロダクション。

第2展示室 青銅器の種類と用途

青銅器の種類や用途を最新のデジタルテクノロジーも駆使してご紹介します。

第3展示室 文様・モチーフの謎

青銅器にあらわされた摩訶不思議な文様・モチーフに焦点を当て、その魅力と謎をご紹介します。

特集展示

日本台湾共同企画
「殷周青銅器 解体新書」
9月27日(土) → 12月14日(日)

これまで未解明であった殷周青銅器の鑄造技術の秘密に、出土鑄型や鑄造実験から迫る——日台共同研究の最新成果を一挙公開。



第4展示室 東アジアへの広がり

青銅器でつながる東アジア世界をテーマとして、鏡を中心に中国と日本など周辺地域の青銅器をご紹介します。

おもな作品

《虎首》 殷後期(紀元前11世紀) 泉屋博古館

《鸚鵡尊》 殷後期(紀元前13-前12世紀) 泉屋博古館

《画文帯同向式神獸鏡》 後漢末～三国(3世紀) 重要文化財 泉屋博古館

《線刻仏諸尊鏡像》 平安時代(12世紀) 国宝 泉屋博古館

* 6/10-6/20、8/5-8/17はブロンズギャラリーのみ観覧可能、一般 600円/学生 400円





「帰ってきた泉屋博古館

リニューアル記念名品展 I

いにしえの至宝たち」

2025年 4月26日(土) → 6月8日(日)

リニューアルオープンを記念して開催する名品展の第一弾は、当館が一貫して活動の根本としてきた住友家伝来の美術品より、仏教美術、絵画・書、茶道具など、日本・中国・朝鮮の美術工芸を精選してご紹介します。

いにしえより名高い逸品、時代とともに新たな価値が見いだされた優品。いずれも、時に気高く、時に優しく、出会う度に違った表情を見せてくれます。観る人の心に寄り添う不朽の住友コレクション、その奥深さに再び出会うまたとない機会です。

美と思索の歴史重なる京都東山の緑豊かな地で、いにしえから尊び愛でられてきた名品の数々を心ゆくまで堪能ください。

おもな作品

伊藤若冲《海棠目白図》 江戸時代(18世紀) 泉屋博古館

《小井戸茶碗 銘六地藏》 朝鮮時代(16世紀) 泉屋博古館東京

伝閻次平《秋野牧牛図》 南宋時代(13世紀) 国宝 泉屋博古館

「続・帰ってきた泉屋博古館

リニューアル記念名品展 II

近代の美術、もうひとつの在り方」

2025年 6月21日(土) → 8月3日(日)

リニューアルイヤーの2025年は、泉屋博古館のコレクションを総覧していただけの名品展を続けて開催いたします。その第二幕では、19世紀にはじまる近代の美術から、洋画や日本画、彫刻そして工芸まで幅広いジャンルの名品が勢ぞろいします。木島櫻谷や板谷波山らの代表作が、装い新たな京都の展示室に続々帰って来ます。また、これまでご紹介する機会が少なかった作家たちの作品も、次の時代の当館を担う新たな「名品」として、みなさまにご披露いたします。

それぞれの作品のうちには、前の時代から継承してきた伝統が脈打ち、と同時に、次の新たな時代を切り開こうとする創意が宿っています。こうした作品たちと出会うことは、過去を引き受けながら未来を創造している私たちが日々生きるための活力となるはずです。本展がその出会いの場となれば幸いです。

おもな作品

木島櫻谷《燕子花図》 大正6年(1917) 泉屋博古館東京

岸田劉生《塘芽帖》 昭和3年(1928)頃 泉屋博古館東京

板谷波山《葆光彩磁珍果文花瓶》 大正6年(1917) 重要文化財 泉屋博古館東京



特別展

「生誕151年目の鹿子木孟郎(仮)」

2025年 9月27日(土) — 12月14日(日)

近代の日本洋画に本格的な写実表現を移植した^{かのこぎ たけしろう}鹿子木孟郎(1874～1941)の生誕150年を記念する特別展。初期の天彩学舎や不同舎で学んだ素描などから、渡仏しフランス古典派の巨匠ジャン＝ポール・ローランスに学んだ作品、帰国後の関西美術院や下鴨家塾での活動などを作品により網羅し、生涯の画業を紹介しつつその功績を再考します。一方で鹿子木は、支援を受けた住友家15代当主・住友春翠に、師ローランスの代表作のほか自作や模写、その他西洋名画を仲介しおさめました。本展はフランス古典派写実表現の系譜とその行方を、鹿子木とローランスの作品を中心に紹介します。

おもな作品

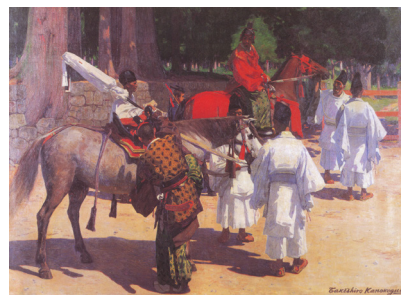
鹿子木孟郎《ノルマンディーの浜》 明治40年(1907) 泉屋博古館東京寄託

鹿子木孟郎《加茂の競馬》 大正2年(1913) 株式会社三井住友銀行

(泉屋博古館東京寄託)

ジャン＝ポール・ローランス《マルソー將軍の遺体の前のオーストリアの参謀たち》

1877年 泉屋博古館東京



information

泉屋博古館(せんおくはくこかん) SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM

住 所 〒606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24
T E L 075-771-6411

※現在改修工事のため休館中、2025年4月26日再開館の予定



〔再開後の予定〕

入館料 一般 1,000円(特別展1,200円)
学生 600円(特別展800円)
18歳以下の方は証明書ご呈示にて無料
※20名様以上は団体割引あり
※障がい者手帳等ご呈示の方はご本人および同伴者1名まで無料

時 間 10:00-17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)
展示替え期間中、夏期・冬期

U R L <https://sen-oku.or.jp/kyoto/>

S N S X: @SenOkuKyoto

f: @SenOkuHakukoKan

@: @senokuhakukokanmuseum

《お問い合わせ先》 泉屋博古館(広報担当 坂井さおり)

TEL: 075-771-6411 FAX: 075-771-6099 E-mail: pr-kyoto@sen-oku.or.jp

ブロンズギャラリー 「中国青銅器の時代」



こゆう
《虎缶》
殷後期(紀元前11世紀)
泉屋博古館



しきょうそん
《鸚鵡尊》
殷後期(紀元前13-前12世紀)
泉屋博古館



《画文帯同向式神獸鏡》
後漢末～三国(3世紀)
重要文化財 泉屋博古館



《線刻仏諸尊鏡像》
平安時代(12世紀)
国宝 泉屋博古館

リニューアル記念名品展Ⅰ 「帰ってきた泉屋博古館 いにしへの至宝たち」

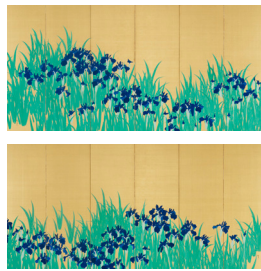


伊藤若冲
《海堂目白図》
江戸時代(18世紀)
泉屋博古館



《小井戸茶碗 銘六地藏》
朝鮮時代(16世紀)
泉屋博古館東京

リニューアル記念名品展Ⅱ 「続・帰ってきた泉屋博古館 近代の美術、もうひとつの在り方」



木島櫻谷
《燕子花園》
大正6年(1917)
泉屋博古館東京



岸田劉生《塘芽帖》
昭和3年(1928)頃
泉屋博古館東京



板谷波山
《葆光彩磁珍果文花瓶》
大正6年(1917)
重要文化財
泉屋博古館東京

特別展 「生誕151年目の鹿子木孟郎(仮)」



鹿子木孟郎《ノルマンディーの浜》
明治40年(1907)
泉屋博古館東京寄託



鹿子木孟郎《加茂の競馬》
大正2年(1913)
株式会社三井住友銀行
(泉屋博古館東京寄託)



ジャン＝ポール・ローランス
《マルソー将軍の遺体の前の
オーストリアの参謀たち》
1877年 泉屋博古館東京